

# センターだよ!

平成25年7月15日

NO.47

東濃西部少年センター

TEL 23-3455 FAX 26-8813

## 夏です ひまわりの季節です

太陽に向かって咲くひまわりのように 輝け若者! 海に 山に スポーツに



センター職員

所 長 宮嶋 昌治  
指導主任 坂井 正昭  
事務担当 柴田 弥生

5月18日に開催した「委嘱式」での加藤土岐市長のご挨拶を紹介します。

### ご挨拶

土岐市長 加藤 靖也

皆さん、こんにちは。本日は大変お忙しい中、東濃西部少年センター指導員委嘱式にご出席いただきまして誠にありがとうございます。今年度の開催市市長として一言ご挨拶申し上げます。

少年を取り巻く環境はずいぶん変わってまいりました。私が小学生になった頃は電話がありませんでした。好きな子に意志を伝えるには手紙を書く必要がありました。そのうち、電話がつながる様になりました。ところが電話をかける時には、お父さんが出るか、お母さんが出るか、彼女が出るかという事で大変勇気が要ったものです。

今日では携帯電話があつてずいぶんと環境が変わってまいりました。地域のつながりというものも、だんだん希薄になってまいりまして、少年を取り巻く環境の変化は激しいものがあります。

そうした中でも、私たち大人は青少年の健全育成を常に願っているものであり、こうして今日は多くの皆さんに、少年指導員を委嘱させて頂きました。これからも地域の青少年の健全育成にご尽力いただきますことを心からお願い申し上げます。主催者のごあいさつとさせていただきます。今日はよろしく願いいたします。ありがとうございました。

# 青少年の笑顔のために

東濃西部少年センター  
所長 宮嶋 昌治

5月18日(土)に土岐市文化プラザ ルナホールにて東濃西部少年センター指導員の委嘱式がおこなわれました。この委嘱式において、青少年の健全育成に関わる各種団体から推薦された総勢194名の方々に、少年指導員の大役をお引き受けいただきました。ありがとうございました。指導員の任期は5月1日から翌年の4月30日までの一年間です。青少年健全育成のための指導活動、よろしくお願いいたします。

以前に発行されました「センターだより」をみていましたら、38に3地区の前地区長様が、年度当初の活動方針を次のように書いてくれました。

多治見地区の谷敏様は、「指導員の業務を今後も充実発展させていかなばなりません」。土岐地区の伊藤真様は、「私たち大人が手本となり、子どもたちの笑顔のためにがんばります」。瑞浪地区の林孝平様は、「巡回時間、場所を各班毎に見直し、意義ある街頭活動を実施します。」とそれぞれより良くしていこうという決意を述べてくれます。3地区を合わせてみますと「子どもたちの笑顔のために、意義ある街頭活動を、充実発展させていきます。」となります。この心意気は、各地区で引き継がれ現在にいたっています。今年度もこの心意気を各地区の指導活動に生かし成果をあげていただきたいと思います。

少年指導員の皆様、青少年の笑顔のためによりよろしくお願いいたします。

平成25年度の地区別指導員の新任と留任の構成は、以下のとおりです。



土岐市文化プラザ

( )内は24年度実数

25年度	新任(人)	留任(人)	うち5年以上	計(人)
多治見市	53(49)	46(53)	12((26%))	99((102))
瑞浪市	19(27)	22(15)	6((27%))	41((42))
土岐市	34(37)	20(19)	5((25%))	54((56))
計	106(113)	88(93)	23((26%))	194((200))

## 少年指導員指導業務について

少年指導員の活動は、皆様方の主体的な取り組みにより毎年、充実発展をし、各地区で大きな成果をあげられています。青少年の心に届く「声かけ活動」を通して非行・犯罪防止に取り組んでいた

だいています。本当にありがとうございます。また、今年度も、多くの新任少年指導員さん方を迎えました。新任の皆様には、まず、青少年への深い愛情を持って積極的に活動をしていただくことを願っております。

東濃西部行政組合例規集の中に「少年指導員さんの業務内容」が、次のように載っています。

「少年指導員さんの業務内容」

- 「指導の心得」・・・深い愛情、高い良識、適切な指導技術
- 「秘密の保持」・・・青少年の基本的な人権を尊重
- 「指揮監督」・・・少年センターの運営方針に従う
- 「研修及び資質の向上」・・・絶えず研究と修養
- 「街頭指導」・・・今は「声かけ活動」と言いかえています。
- 「街頭指導の対象者」・・・20歳未満の者とする
- 「地域活動」・・・地域の活動に積極的に参加
- 「少年相談」・・・少年又は保護者

「東濃西部少年センター少年指導員指導業務要領」から

注) 街頭指導 = 声かけ活動

この8つに分類された業務内容の中の「街頭指導」の部分についてもう少し詳しくみてみます。

(街頭指導)

第7条 指導員は、少年センターが実施する街頭指導に、積極的に従事しなければならない。

2 指導員は、街頭指導に従事するときは、定刻までに指定場所に集合して、2人以上で指導に当たってはならない。

3 指導員は、街頭指導を行ったときは、指導日誌に必要事項を記入し、所長に提出するものとする。

東濃西部少年センターでは、昨年度に引き続き「声かけ活動」を通して非行・犯罪防止を重点標

としています。「声かけ活動」

の際は、出来るだけ数多くの青少年と会える時間帯、巡回コースをお願いしております。

また、関係機関・団体の皆様にも、日頃からご理解とご協力をいただいております。感謝申し上げますとともに、今後ともセンター業務の円滑な推進に対しまして、一層のご指導・ご鞭撻がいただけますようお願い申し上げます。



平成 25 年度指導員委嘱式

永年お努め頂いた指導員を平成24年度でご退任され、委嘱式で特別表彰を受けられた3名の方に寄稿して頂きましたのでご紹介します。

## 永年の指導員としての思い出

前多治見地区指導員  
坪井友治

少年指導員としてお世話になって、あっという間の二十三年でした。

独身時代、BBS会員という青年ボランティア団体のメンバーとして、保護司さんの指導を受けながら、何かが原因で非行に陥ってしまった少年たちを、お寺の一角に宿泊施設を作ってあずかったことがあります。保護司さんは彼らを、一般企業で職場体験させ、普通の生活ができるように指導して見えたので、私たちもその子たちと一緒にキャンプに行き、一緒に遊び、同じ目線で友達となって接し、彼らが健全に成長するように、兄や姉の立場になってサポートすることを目指して活動しました。

昭和62年、地域の公民館長をしている時、地域が少年非行でワースト1を数年続けたことがありました。公民館の窓ガラスを割ったり、津島神社の屋根に石を投げて瓦を割ったりして、いたずらが段々横暴になってきたので、役員交代で見張りをしておりましたら、中学生が下校時にガラスを割るのを現場で見つけたので、その子の親に指導と注意を行いました。また中学校のPTAのみなさんのご協力により、朝・夕の登下校時に地域毎に街頭指導に立っていただきました。また、ミニ集会等を地域毎に開催していただき、看板、標語なども設置していただきました。反響もいろいろありましたが、ひとつひとつ説明をしていき、成果を上げることが出来たと思います。

当時、笠原町教育委員会から岐阜県の青少年育成推進委員の研修に行くよう勧められ、一泊二日の研修を受講させていただいたこともありました。

平成2年から笠原町青少年育成准指導員となり、同時に東濃西部少年センター笠原地区指導員を兼務して活動を始めました。

活動内容は、笠原町内の商店、学校、公園など子どもたちの集まりそうなところを4～5人を1グループとして毎週巡回しました。また、笠原町のイベント（夏祭り）お寺様のお薬師等、指導員全員で主に夜間の巡回を行いました。高度成長期で事業所も管理が手薄であったのか、シンナーが1缶無くなっていても気が付かず、誰かが持ち出したシンナーの缶が公園の一角に隠してありました。警察に届けた結果、警察から所有者の事業者に対し厳重注意したとの連絡を受けました。警察からは、巡回中に何か変わったことがあれば、いつでも言ってくださいとの話もありました。

少年センター指導員の研修会についても、年1回東海地区少年指導センター連絡協議会で、総会も兼ね一泊二日で各少年センターから活動内容を発表し、問題を提議しながら分科会に分かれ、いろいろな意見を出しながら討議し、集約し発表、大変役に立つ研修会であったと思います。

地域の子どもたちが安心・安全に通学できるよう、子ども110番の家が小学校からお願いしているところと、笠原交番からお願いしているところがあったので、一本に統一するとともに方面別に見直し、新規にお願いしたり、再度のお願いをしたりして、皆様にご協力をいただいた。そうし

た中で、子どもに対するいろいろな法律（児童憲章、未成年者喫煙禁止法、未成年者飲酒禁止法）など現在ではそぐわないような気がします、自分なりに勉強することも出来ました。

いろいろな子どもたちに声をかけたおかげで顔見知りとなり、今ではその子ども達も成長し立派な社会人となり、地域のイベントではなくてはならない人材となっています。

平成18年、多治見市と笠原町の合併に伴い、それまで3市1町で運営されていた東濃西部少年センターも3市に統合となり、笠原地区指導員は多治見地区13班として再編されました。各地区役員や学校の先生、PTA役員から選出され20人いた指導員は、保護司、民生児童委員、小中学校の先生とPTA役員、市民会議2人の計8人で班を構成し巡回しました。回数は週1回から月1回と減少しましたが、巡回場所は笠原町に留まらず多治見市内に広がり、笠原町では見られなかった子どもたちの行動も勉強することが出来ました。

小、中学生の登下校時に子どもたちに声かけすることによって、指導員と子どもたちとのコミュニケーションがとれ挨拶も出来るようになり、明るく登下校する子どもの笑顔が見られるようになったのはうれしいことでした。

私が昨年度在籍した多治見14班は、多治見市内4つの高校の先生やPTAの役員の方で構成され、駅前周辺を巡回しました。先生方は自分の学校の生徒をすぐに見つけ、子どもに寄り添い声かけをされるので、ただただ感心するのみでした。

また、最近では各々の班で声かけの機会を増やすべく、活動の時間や場所を工夫されています。とても良いことだと思います。

最後になりますが、今後の東濃西部少年センターの指導員皆様のご健康でご活躍されることをお祈りして筆をおきます。お世話になりました。

## 「少年指導員の活動に参加して」

中京高等学校 生徒指導部  
水野 讓

少年指導員の方々におかれましては、日頃の少年指導員の活動を通し、青少年の非行の防止や健全育成にご尽力され大変ご苦労様です。さて、私が中京高校に赴任して数年で、学校を代表し少年指導員に任命されて、すでに22年が経過しました。当初、土岐市駄知町出身の自分は、夜間瑞浪市内を巡回することは初めての経験で、教員とはいえ何もわからずとても不安な気持ちで参加していました。同じ班の先輩指導員の方々いろいろな教わりながら、巡回することの意義を、身をもって学ばせていただき、やがて自信を持って巡回することができるようになりました。そして数年後からは班の責任者として、指導員の活動に取り組み、現在に至りました。

川沿いでの花火や不純異性行為、駅前周辺での地べたの座り込み、郊外での自転車の2人乗りならびに単車乗車や喫煙行為、ゲームセンターでゲームに興じる青少年らへの声かけを、勇気をもつてできたのも、班で一緒に行動していただいた指導員の方々のお陰です。いつもそのような状況を目にした訳ではありませんが、指導員の方々いろいろな話しをしながら巡回することで、さまざまな青少年の行動する場面に出くわしたときの心の準備が自然に出来上がっていて、彼らに声かけをすることができたのではないかと思います。また、巡回をする際は、火バサミとナイロン袋を持ち、

ゴミを拾いながら巡回することで、地域の方々からご苦労様と声をかけていただいていたことも、巡回の励みになりました。

少年指導員の活動は、日時の制約や責任のある活動で、決して楽な業務ではありませんが、長い間指導員を続けてこられたのも、暑い時も寒い時も雨や雪が激しく降っているときも共に巡視していただいた指導員の方々がいらっしゃったからこそです。本当に感謝しております。今回瑞浪市在住で生徒指導部の後輩ができたことで、指導員を交代することとなりましたが、今後も中京高校の教員として、少年指導員とは異なる取り組み方で、地域の青少年の健全育成に微力ながら協力してまいりますので、ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

## 声かけと共に 22年

前瑞浪地区指導員  
林 孝 平

皆さんお元気ですか！

午後7時、集合場所の駐在所にメンバー4名集合。「お疲れのところごくろう様です。よろしくお祈りします。」の言葉からいつもの活動が始まります。健康で、良きメンバーに恵まれた事に感謝しております。長いようで、短い22年間でした。

思いのまま筆を取らせて頂きます。小中高校生、子どもたち。50年前の子どもも今の子どもたちも何も変わりはありません。変わったのは、世の中の環境、家庭内の環境ではないでしょうか。以前ある人に「指導活動として夜回りをしているが、駅前で高校生の座り込み、タバコ、はいかいがある。巡回してもだめじゃないか。」と言われたことがあります。言いたいことを言うなあ～と気分が悪かったので、言ってやりました。「やらないより、やった方がよい。子どもたちはどの子どももかわいいで！！」言った本人は黙っていました。

3月に東濃西部少年センターより、**指導活動**から**声かけ活動**へ名称を改めるとの案内がありました。「一部の若者による迷惑行為や不良行為はあるものの、センターの活動結果や多治見警察署管内の補導件数を見ても、確実に減少していることは明らかであり、だからこそ、私たちは今まで以上に、『声かけ活動』に力を注ぐ。」ということです。

通学路における児童・生徒たちのあいさつ、**声かけ**のポイントとして、何事においても感情的になっては駄目ということ。すがすがしい気持ちで声かけを心がけています。巡回する重点場所も年々変わっています。センターとの連絡や地区メンバーとの情報交換等は、悪いことばかりでなく良いことも大切です。声かけは、私の好きな言葉「みとめて、ほめて、はげまして」を胸に、あいさつと声かけをしています。

3地区合同研修会での高校生との意見交換では、若者の率直な意見が聞けて大変勉強になりました。このような研修会は毎年、テーマを変えて実施したら良いと思います。指導員の活動に参考になると思います。

最後に指導員の皆様には、健康に留意され、黄色のベストを身に付けて、各々の地域で声かけ活動に邁進されることを念じております。活動に際しては、明るく、楽しく、元気よく、をモットーに頑張ってくださいと思います。ご苦労様です。